

# erudio17

国立大学法人 岩手大学 大学教育総合センター通信 2012.12

Iwate University : University Education Center

## Contents

- |    |            |
|----|------------|
| 2  | ごあいさつ      |
| 4  | 運営委員会      |
| 5  | 入試部門       |
| 6  | 全学共通教育部門   |
| 8  | 教育改善部門     |
| 10 | 専門教育等連携部門  |
| 11 | 学生支援部門     |
| 12 | キャリア支援部門   |
| 13 | アイアシスタント   |
| 14 | 委員会及部門会議名簿 |

# ごあいさつ



## ごあいさつ

なが の しゅんいち

長野 俊一

大学教育総合センター 副センター長  
(教授・人文社会学部専任担当)

この4月以来、『予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ(審議まとめ)』(中教審・大学分科会大学教育部会)や『大学改革実行プラン』(文科省・大学改革タスクフォース)が矢継ぎ早に公表されるなど、大学改革をめぐる議論が俄にかまびすしさを増してきました。国家戦略会議の議事録にも改革「待ったなし」の文字が踊ります。

これらの提言に示された教育改革の方向性や具体的プランの多くは、本センターの業務にも深く関わるものですが、言うまでもなく、ひとりセンターの手に負える課題ではありません。大学教育とりわけ学士課程教育の「質的転換」一つをとっても、全教職員個々人の問題であるにとどまらず、さまざまのレベルの組織体で体系的に考えていかなければ改善や解決の糸口さえ見出せないでしょう。

『実行プラン』は期限付きです。期限間際にあたふたと帳尻合わせをして躊躇を嘔むといういつか来た道を辿ることがないよう、ふだん学生相手に「主体的に考え、行動せよ」と言い放っているわれわれとしては、ここは上からも下からも、より良い大学教育をめぐる自由闊達な議論を、文字通り「主体的に」積み重ねていくべき時ではないでしょうか。その際、個人的には、若い世代に多くの期待をかけています(勿論、私のような「勤続疲労」に蝕まれた老頭児もそれなりに汗をかくつもりではいますが)。

本センターとしても、その中で、当然一定の役割を果たすことが求められます。だが、現行体制では如何ともし難いというのが実情であり実感です。日常的業務だけでも、すでにわれわれの能力を量的に超えています。また、センターに課せられた仕事は、質的にも、兼務教員がそれぞれの本務の片手間にこなせるものではありません。専任スタッフの早期の充実が望まれる所以です。

ご挨拶に代えて、就任からちょうど半年経ったいまの私感の一端を述べさせていただきました。



## ごあいさつ

よこ やま ひでのぶ

横山 英信

全学共通教育部門長  
(教授・人文社会学部専任担当)

本年4月から全学共通教育部門長を仰せつかっています。1995年4月の本学着任以来全学共通教育科目の担当も17年を超えたが、今回、部門長を引き受けたこともあり、全学共通教育の意味を改めて考えさせられています。

私の大学入学時を思い出してみると、「希望の学部に入ったのだから、すぐに専門の勉強をしたい」と意気込んでいたものの、1・2年次の授業のほとんどは一般教育科目(現在の岩手大学の全学共通教育科目に相当)であったため、「何で専門と関係のない勉強をしなければならないんだ」と不満に感じていました。先生方が「広い裾野(教養)がなければ高い山(専門)もない」とおっしゃっていたことも、当時はピンときませんでした。

立場が変わり、今は私が学生に当時の先生方と同じことを話していますが、おそらく多くの学生の全学共通教育科目の捉え方は昔の私と同じでしょう。正直に言うと、私は学生が全学共通教育の意義を在学中に本当に理解することは難しいと思っています。私自身で言うと、自分なりに培った「ものの見方や考え方」が大学時代の一般教育科目からも一定の影響を受けていた、と実感したのは30代も半ばを過ぎた頃でした。私と同年代の多くの人も、社会に出て様々な経験をする中で初めて一般教育の意義を理解したと思います。

「全学共通教育科目の本当の意義は社会に出てから理解できる」とするならば、教員としては、同科目を学生の興味・関心をひくような内容にするとともに、人生の先輩として「これから的人生に向けて、大学時代には広い裾野をつくってほしい」というメッセージが伝わるものにすることが重要なとも思っています。

学生・保護者・教職員の皆様からの様々な御意見をもとに、岩手大学の全学共通教育のいっそうの充実を図りたいと存じます。今後ともよろしくお願ひいたします。

# ごあいさつ



## ごあいさつ

たけ い たか あき  
**武井 隆明**

教育改善部門長  
(教授・教育学部専任担当)



## ごあいさつ

まつかわ みちあき  
**松川 倫明**

専門教育等連携部門長  
(教授・工学部専任担当)

教育改善部門が何故必要なのかと疑問に感じていた自分が、何故その部門長を引き受けてしまったのか自分でも分かっていません。今まで後藤尚人先生が殆ど固定した形で部門長をやってこられた部門であり、それだけでも軽々と引き受けられるものではありません。そんなわけで高畠センター長から声を掛けられたときも断ったつもりでいました。他にも多忙等を理由に断られていたようで、この部門の兼務教員の中にたまたま私の名前を見つけたということで、有り難い(?)ことにお話があったようです。結局断ったことはなって居らず、取り敢えず繋ぎのつもりで引き受けました。よろしくお願ひいたします。

そんな訳で、半期も過ぎた今、頭の中を少し整理しておきたいと思うようになりました。例えば、教育改善とはと考えたとき、そもそも給料の中に入っているもので、以前から当たり前に個々の教員はやっていたことだと思います。それを、個々の教員が個別にやるだけでなく、組織として教育改善に取り組むことが求められることになった(組織的FDの義務化)ということです。その例として、個々の教員の教育方法についての情報交換をすることだったり、研修によって新しい教育方法を知る機会を増やしたりすることなどが挙げられるでしょう。そもそも個々の教員の情報交換は昔から行われていたことであり、多忙化のためか逆に今の方が少なくなったがために重要視されているように思われます。この組織的FDの義務化のとらえ方が構成員の中でも様々なようで、その状況下での組織的FDの実施という問題点が見えてきます。

大学全体の組織的FDは、大学教育総合センターを中心となり、教育改善部門で審議して実行されてきていると思います。PDCAサイクルを考えたとき、企画(Plan)と実行(Do)は十分なされてきたといえるでしょう。ここらで歩みの歩調を抑え気味にして組織的FDについての検証(Check)を行う時期でしょうか。検証までは無理でしょうが、振り返りから次へ渡すバトンが見つかればと思っているところです。(誰へ?)

今年度部門長を引き受けことになりましたのでどうぞよろしくお願いします。専門は、電子材料学・物性物理学であり、新規超伝導体の創製や未知の磁性材料の物性の解明を目的にしています。過去に工学部の教務委員をやらせていただき、平成21年度工学部改組に伴う新学科の教育プログラムの策定にも携わってきました。学部では、量子物理学やフーリエ解析等の専門科目を担当しており、基礎学力の不足している理系学生の教育に関して頭を悩ませている日々です。また、大学院の超伝導の講義で必要最小限の範囲でBCS理論等にも触れます。学生の関心の低さは言うまでもありませんが、興味を抱く学生も少なからず存在します。

この部門では全学共通教育と専門教育の縦の連携と学部を超えて専門教育の横の連携を教育プログラムの充実という観点から検討します。具体的には、初年次教育のイントロダクションである転換教育科目の在り方を、6年間にわたって実施してきた基礎ゼミナールの総括を通じて考えていく予定です。また、初年次理系教育のコアである専門基礎科目(数学、物理学、化学等)の在り方について、科目担当教員や授業開講学部の教員の皆さんと考えていきます。

今年度は、初年次教育の充実と外国語の自主学習の促進という二つの年度計画を柱にして、学部選出の部門会議の委員や大教センタースタッフの協力のもとに年度計画の実現に努力したいと考えています。すでに学部の教務委員会レベルにおいて、専門基礎科目の習熟度別クラス編成の調査や英語統一試験の実施に向けた検討をお願いしております。学士力を保証する一定の教育水準を維持するために皆さまの御支援をお願いします。

最後に本部門の専任教員が欠員ということもあり、部門会議の構成員の方々には、本来の職務に加えてご負担をおかけすることになると思いますが岩手大学の学部教育の重要性をご理解の上ご協力をお願いいたします。

# 運営委員会

大学教育総合センター長 高畠 義人

## 学位授与の方針

昨年度から継続して審議している事項であり、本年度中に「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」を策定し、この2つの方針の決定に伴い、すでに整備している「入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)」との整合性を確認し、3つのポリシーを決定、公開することを再確認しました。今後のスケジュールを確認し、8月の運営委員会で各学部が策定したディプロマ・ポリシーの第一次案を審議し、全学的に形式、文言等を統一していくことにしました。さらに夏期休業中にカリキュラム・ポリシーの第一次案を策定することを決め、そのためのカリキュラム・マップ作成ワークショップを8月8日に開催しました。

## 成績評価ガイドラインについて

成績評価ガイドラインに関しては、中期計画にも記述されている事項であり、以前にも運営委員会等で審議していたものです。本委員会では今年度中に学部等で策定することにし、過去の審議状況や共通教育分科会で作成したガイドラインを例示し、11月の本運営委員会までに各学部で策定することを決定しました。

## FD ガイドライン(案)の決定

昨年度作成し、各学部に意見を求めていた FD ガイドライン(案)について、各学部からの意見に基づいて教育改善部門において審議・修正した案について、8月の運営委員会で審議し、了承しました。

## 「保留」単位に関する成績評価報告の期限設定について

成績報告における「保留」について、数年間「保留」のまま単位認定されない学生が数多く存在し、「保留」としたまま、退職や転任してしまう場合もある等の問題点があるため、「保留」の期限設定について審議しました。審議の中で、かつては6ヶ月の期限があった、特殊な場合については考慮することが必要ではないか、等の意見があり、運営委員会としては、9月の委員会において、工学部が審議未了でしたが、原則として6ヶ月の期限とする、ことを大筋で決定しました。また、すでに退職・転任教員の科目で「保留」になっているものについては、各学科、課程で対応することとしました。

## その他

専任教員の補充について審議し、センターの教育関連定員3名に対して、現員が1名だけとなっており、共通教育等に関するセンター業務が十分にできず、学部教員への負担が多くなるため、補充を要望することとしました。非正規生の入学時提出書類の「保証人」を「緊急連絡先」に変更することについて、審議し、了承しました。平成24年度FD合宿研修会を8月23～24日に「これからの中大教育のあり方を考える—「大学改革実行プラン」を受けて」というテーマで開催することを決定し、4学部教員のほか、いわて高等教育コンソーシアムに所属する教員も参加し、無事終了しました。平成24年度高大連携ウインターセッションに関しては、「復興を支える知の力」というテーマで、12月25～27日に開催することにしています。また、中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」を配布し、検討をうながしました。

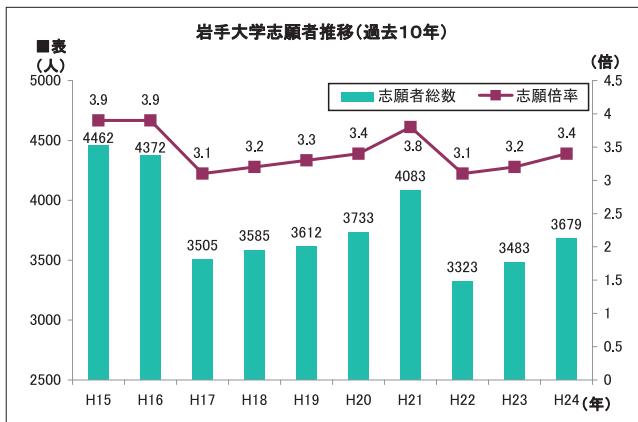
本年度は25年度に予定されている認証評価に向けて、教育の質保証の観点から3つのポリシー等、策定・公表しなければならない項目がいくつかあり、各学部での策定をお願いしています。本学の学生教育に関しては、一部問題がないわけではありませんが、総体的には適切に行われていると考えています。ただ、本学で行っているそれらのことを社会に向けて公表することが、必要になってきています。各教職員のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。



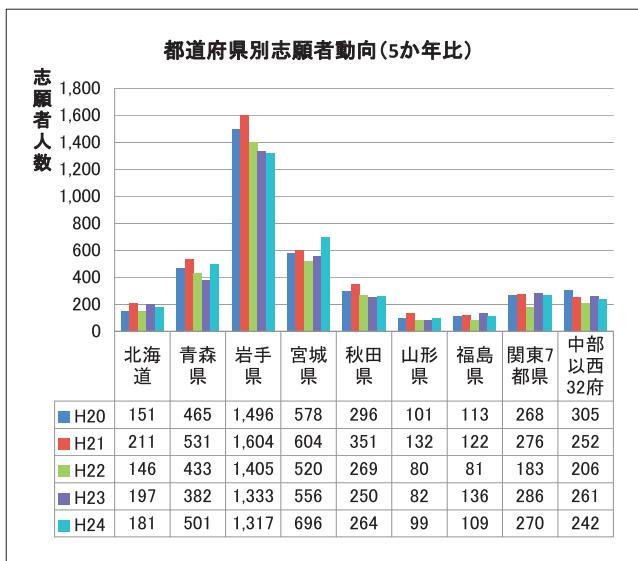
専任教員 岡本 崇宏

## 平成24年度入試

今年度の入試は、総志願者数 3,679 人となり、結果 2 年連続の志願者増であった。(前年比 196 人増、プラス 5.6%) また、ここ 10 年では、平成 17 年度と平成 22 年度の 2 度大きく志願者を減らすことがあったが、漸く平成 17 年度の大幅減少した志願者数 3,505 人(前年 16 年度比 867 名減、マイナス 19.8%) を上回ることができ、平成 17 年度の減少後の 8 年間の志願者数では平成 21 年度、20 年度に次ぐ 3 番目の多さであった。志願倍率でも同様の結果となった。



一方、都道府県別の志願者状況では、地元岩手県(16 人減)や北海道(16 人減)からの志願者は回復せず漸減傾向であり、近隣の青森(119 人増)、宮城(140 人増)両県の志願者増が全体を押し上げた結果となった。



また昨年の東日本大震災の影響や近年の生徒の地元国立大学志向等もあり、関東以西からの志願者は増加には転じなかった。今後岩手大学の志願者増を図るた

めには、東北・北海道での募集広報とともに関東以西においても国立大学志向の高等学校への広報強化を狙い直接高校訪問校数を増やす必要があると考えられる。

## 平成24年度前期中の高校訪問・会場ガイダンス等

各学部の先生方の協力のもと、今年度 4 月以降北海道、青森、秋田、岩手、宮城、東京、神奈川、静岡、愛知、大阪の 10 都道府県において会場ガイダンスを実施(業者主催に参加)するとともに、高校訪問を実施した。特に地元岩手県内の主要 16 校については、直接進路部長と懇談し、平成 24 年度の大学進学状況や本学の評価・受験実績についてヒアリングを実施した。会場ガイダンスで特徴的なことは、多くの生徒は事前に学部や学科等の内容について下調べが終わっており、大学間比較検討のために各大学のブースで質問をしていることである。このため、『岩手大学と他の国立大学との違い、優位性』について整理する必要がある。また高校教員が知りたい岩手大学の情報では、出口保証としての就職率・進学率が一番であった。今年度から入試課職員についても全員を輪番制で高校訪問や会場ガイダンスに積極的に参加させ、組織として募集広報活動を行っている。

## 平成24年度入試分析結果及び高校訪問報告会実施

6 月 29 日に標記の報告会を開催した。この報告会では、特に進研模試のデータに基づいて岩手大学の入試分析や高校教員のみが見ている岩手大学を含む国立大学入試分析データについても開示し報告を行った。また高校訪問での各高校進路部長の岩手大学評価等について報告を行った。



# 全学共通教育部門



ごあいさつ

よこい まさあき  
横井 雅明

外国語分科会代表  
(教授・人文社会科学部専任担当)

今年度から全学共通教育外国語分科会代表を務めることになりました。この分科会はかつて外国語科目担当教官会議と呼ばれていたものがベースになっています。丁度12年前にその代表を務めたことがあります。当時は、人文社会科学部と教育学部の一部の教員を中心とした非常に閉じた集まりであったと思います。現在は全学的な分科会となっています。私はフランス語を担当しているため、「外国語」の教育事情はある程度分かっていましたが、留学生が修得する「日本語」の教育形態についてはほとんど無知であったことに気づき、代表とは言っても構成員の皆さんと一緒に勉強しながら手探りで進めているといった次第です。以前から話題になりながら今だ残されている問題がいくつかありますので、この2年の間にできる限り解決して行きたいと考えています。よろしくお願ひします。



ごあいさつ

しみず しげゆき  
清水 茂幸

健康・スポーツ分科会代表  
(教授・教育学部専任担当)

本年度から「健康・スポーツ」分科会の代表になった清水茂幸です。「健康・スポーツ」分科会は主に健康・スポーツA(前期)、B(後期)、及びC(シーズンスポーツ)を担当する教員で構成されています。学部を退職された名誉教授から、学部を卒業したての若い非常勤講師まで様々な年齢の教員で構成され、このバリエティに富んだ年齢層が絶妙なバランスを保っているのが特徴といえます。スポーツという分野の特性上、ベテランの教員には実技中心の授業は辛いものがありますが、これらの教員はスポーツ指導に関する豊富なスキルを有しており、受講者に運動の楽しさを味わわせることに長けています。一方、若手の教員はバリバリに体は動くものの、指導スキルに関してはベテランから大いに学ぶべき点があります。ベテランは若手か

ら元気をもらい、若手はベテランから指導方法を習う。このような相互関係から我が分科会は成り立っています。



ごあいさつ

ふじもと ただひろ  
藤本 忠博

情報基礎分科会代表  
(准教授・工学部専任担当)

情報基礎分科会は、各学部・学科で情報科目「情報基礎」を担当する教員を主要な構成メンバーとしています。情報基礎は1年生前期に開講され、パソコンの操作方法をはじめとし、コンピュータによる文書作成、プレゼンテーション、メールなど、コンピュータリテラシー教育を目的とした科目です。どの学部・学科にとっても、高年次の専門教育へと進んでいく上で必要とされ、さらには、卒業後の仕事等でも必要とされる基礎技能の習得のために重要な科目と考えています。一方、開講される学部・学科によって具体的な授業の目的や受講生に求める達成目標などが異なり、講義内容や実施方法が学部・学科ごとに様々であるのが現状です。そのため、全ての学部・学科に共通する基準等を設定することが難しい面はありますが、逆に、学部・学科ごとの事情に応じた工夫により、受講生にとって有益な科目となるような方法を見出していくことが最善策ではないかと思っています。



ごあいさつ

じん つね お  
神 常雄

心と表象分科会代表  
(准教授・教育学部専任担当)

東日本大震災と福島の原発事故、この未曾有の大災害は、現代に生きる私たちに人間の価値や生き方はどうあるべきか、その大きさをあらためて問いかけていくと思います。この「心と表象」の分科会は、心理学・言語学・文学・芸術学といった人文科学の幅広い分野の教養科目の授業を担当することになっています。これらの授業を通じて学生の皆さんには、「人間の意識的世界の理解が一人一人を視野により具体的に考えられるようになる」ということ期待したいと思います。

# 全学共通教育部門

## いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアム事業推進責任者  
後藤 尚人

### コンソーシアムとしての震災復興支援：新規開講科目

コンソーシアムの震災復興関連特別講義として、全国大学コンソーシアムを通じて全国の大学に教員ボランティア(謝金なし、旅費は支給)を募り、14大学から賛同者を得たことで実現しました。岩手大学に科目を置き、いわて高等教育コンソーシアム連携校の学生は単位互換科目として受講します。両科目とも、本年度は、土曜の午後に2コマずつという変則的な集中講義形式で実施しています。

#### 「ボランティアとリーダーシップ」(前期集中)

ボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割、組織の動かし方などについて学び、多様な状況に対応し得る能力と知見を習得することを目的として開講した科目です。

下方の科目表のとおり、5月12日から8月4日まで、計7回(最終回は3コマ)実施し、履修者は39名(岩大29名、県大8名、盛大2名)でした。

授業は講義だけでなく、グループワークを取り入れ、講義内容をもとに学生間で議論して考える機会を持ちました。

それぞれの授業の様子は、いわてコンソ HP のイベントカレンダー ([http://www.ihatov-u.jp/cgi-bin/event/event\\_list.cgi](http://www.ihatov-u.jp/cgi-bin/event/event_list.cgi)) に掲載していますので、ご確認下さい。

授業修了時に実施したアンケートでは、担当教員の授業への熱意に関して97%がプラス評価(5点満点69%、4点28%)だったのを筆頭に、授業内容について今後役に立つが93%、授業全体の総合評価は90%がプラス評価でした。

#### 「危機管理と復興」(後期集中)

危機管理(リスクマネジメント)や防災、都市計画、地域コミュニティ再生、メンタルヘルスケアなどについて学び、多様な状況に対応し得る能力と知見を習得することを目的として開講した科目です。

後期は10月13日から12月15日までに7回実施します。履修者は前期科目よりは少なくなりそうです…(10月9日現在で22名:岩大17名、県大4名、盛大1名)

岩手大学での科目名は、「総合科目特別講義(危機管理と復興)」です。前期科目が社会系の科目として開講したのに対し、後期科目は内容が多分野に及ぶことから、総合科目に位置づけています。

前期同様、担当教員はいずれも各分野の専門家で、かつ震災復興への協力を惜しまない熱い思いを持たれていますので、授業が楽しみです。

変則的な開講形式ですので、履修申告していない場合でも、関心のある授業回のみの聴講も歓迎します。授業時間はいずれの回も13時15分～16時30分です。

平成24年前期「ボランティアとリーダーシップ」(岩手大学 教養科目 人間と社会)

回	実施日	教室	内 容	講 師	所 属 大 学 等
1 & 2	05月12日	アイーナ 学習室1	コミュニケーショントレーニング	西村 千尋	長崎県立大学 経済学部 地域政策学科 教授
3 & 4	05月26日	岩手大学 G22	グループワーク	肥後 祥治	鹿児島大学 教育学部 障害児教育学科 教授
5 & 6	06月09日	マリオス 187	ボランティア活動	山本 佳世子	電気通信大学 大学院情報システム学研究科 准教授
7 & 8	06月23日	岩手大学 G22	リーダーシップ	吉田 祐一郎	四天王寺大学 人文社会学部 人間福祉学科 講師
9&10	07月07日	マリオス 187	絆・仲間作り	田島 弘司	上越教育大学 学校臨床研究コース 准教授
11&12	07月21日	岩手大学 G22	組織マネジメント	宮川 正裕	中京大学 総合政策学部 教授
13&14	08月04日	マリオス 187	ソーシャルビジネス	大室 悅賀	京都産業大学 経営学部 准教授
15	08月04日	マリオス 187	振り返り(グループワーク)	後藤 尚人	岩手大学 人文社会学部 教授

平成24年後期「危機管理と復興」(岩手大学 教養科目 総合科目)

回	実施日	教室	内 容	講 師	所 属 大 学 等
1 & 2	10月13日	アイーナ 学習室1	危機管理	村田 静昭	名古屋大学 大学院環境学研究科 教授
3 & 4	10月27日	岩手大学 G22	防災教育	城下 英行	関西大学 社会安全学部 助教
5 & 6	11月10日	アイーナ 学習室1	災害カウンセリング	鶴田 一郎	広島国際大学 心理科学部 臨床心理学科 准教授
7 & 8	11月17日	アイーナ 学習室1	防 災	和泉 潤	名古屋産業大学 環境情報ビジネス学部 教授
9&10	12月01日	アイーナ 学習室1	地域コミュニティ再生	室田 昌子	東京都市大学 環境情報学部 環境情報学科 准教授
11&12	12月08日	アイーナ 学習室1	都市計画	神山 藍	金沢工業大学 環境土木工学科 講師
13&14	12月15日	アイーナ 学習室1	防災とメディア情報	畠 祥雄	関西学院大学 総合政策学部 メディア情報学科 教授
15	12月15日	アイーナ 学習室1	振り返り(グループワーク)	後藤 尚人	岩手大学 人文社会学部 教授

# 教育改善部門

専任教員 江本 理恵

## 全学共通教育授業公開

平成24年6月11日～6月15日の間、全学共通教育のすべての授業を公開する「授業公開」を行いました。今回は、学部で開講されている専門教育科目のいくつかの科目も「授業公開」の対象科目として加わることになりました。

参観者の方々からは、「学生に戻った気持ちになり、新鮮でした。子供がどのような環境の元で勉強しているのか、授業を見学し、体験できてうれしく思います。」「年に2回くらい公開講座があつても良いと思う。岩手大学の雰囲気、学生の様子も知ることができる(地域に知ってもらう良い機会)と思うので。」などのご意見をいただきました。

## カリキュラム・ポリシー作成ワークショップ

現在、岩手大学では、各教育プログラム単位で「3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）」の策定に取り組んでいます。これらのポリシーの策定については、「決まった方法」があるわけではなく、作成しながらより良い方法を模索していくかなければなりません。

そこで、教育改善部門では、策定に携わっているみなさんに意見交換しながら、「どのようにカリキュラム・ポリシーを作つていいのか」を探求する「カリキュラム・ポリシー作成ワークショップ」を8月8日(水)に行いました。ワークショップでは、参加された先生方同士で色々と意見交換を行うことができ、より良い「カリキュラム・ポリシー」の策定に向けて、得るものがあったかと思います。

## FD研修会

平成24年8月23日・24日と、合宿形式のFD研修会を行いました。今年度のテーマは「これからの大学教育のあり方を考える－『大学改革実行プラン』を受けて」で、6月に公開された「大学改革実行プラン」、8月上旬に発表された「未来を創出する大学教育の構築に向けて(答申案)」を学び、今後の大学のあり方を考える研修会となりました。いわて高等教育コンソーシアムとの共催で、岩手大学から27名、岩手医科大学から2名、盛岡大学から1名、富士大学から2名の参加者がありました。

講演では、「大学改革に関する文教施策の動向につ

いて」というタイトルで、文部科学省高等教育局大学振興課学務係長の安部田康弘氏にお話をいただきました。安部田氏には、講演以降のすべてのプログラムに参加していただき、様々な形で意見交換を行うことができました。



ワークショップでは、「『未来を創出する大学教育の構築に向けて(答申案)』を学ぶ」プログラムI、「大学改革実行プラン」とは何か?」を考えるプログラムII、「これからの中の大学のあり方を考える」プログラムIIIの3つのプログラムが行われました。年齢、性別、専門が多様な教員が集まってのグループワークで、社会情勢や大学が置かれている状況、社会から要求されていること等を確認しながら、今後の大学のあり方について、議論が行われました。

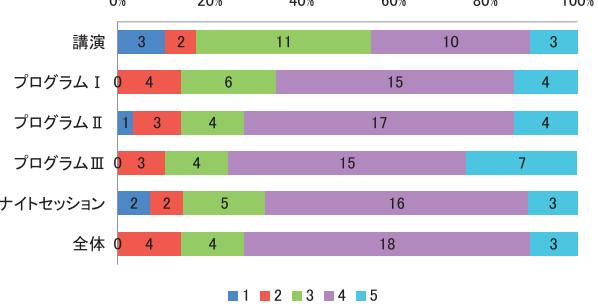
ナイトセッションでは、「岩手大学の三陸復興への取組」というタイトルで、三陸復興推進機構長の岩渕明氏からお話をいただき、岩手大学の先生が取り組ん

## アンケート集計結果(一部抜粋)

Q. 今回の研修会の各プログラムについて、5段階で評価し、○で囲んでください。

講演	大学改革に関する文教施策の動向について
プログラムI	『未来を創出する大学教育の構築に向けて(答申案)』を学ぶ
プログラムII	『大学改革実行プラン』とは何か?
プログラムIII	これからの中の大学のあり方を考える

ナイトセッション 岩手大学の三陸復興への取組



# 教育改善部門

でおられる復興への取組を幅広く認識する機会となりました。

来年度以降もいわて高等教育コンソーシアムと連携しての研修会を企画・実施したいと考えております。また、合宿以外の形での研修も多数ご案内しております。みなさまのご参加をお待ちしております。



## 学生による授業アンケート

教育改善部門では、全学共通教育科目を対象に、いくつかの授業科目を除いて、2年に1回のペースで学生による「授業アンケート」を実施しています。平成23年度は後期開講科目、平成24年度は前期開講科目が授業アンケートの対象科目となります。

授業アンケートの結果は、個々の授業担当者に返却する他、部門会議で作成した基準にしたがって「全学共通教育優秀授業科目」を選出しています。

平成23年度後期の優秀授業科目は以下の通りです。

今年の7月11日に、藤井学長をお迎えしての全学共通教育優秀授業科目の表彰状の授与と懇談会を行いました。

## 平成23年度後期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目 一覧

### 人間と文化

0006	心の理解	松 岡 和 生
0014	芸術の世界	煤 孫 康 二
0013	欧米の言語論	齋 藤 伸 治

### 人間と社会

0044	多文化コミュニケーションB	松 岡 洋 子
0033	社会の人間論	塚 本 善 弘
0041	対人関係の心理学	川 原 正 広

### 人間と自然

0054	宇宙のしくみ	石 垣 剛
------	--------	-------

### 環境教育科目

0074	人の暮らしと生物環境	小 田 伸 一
0065	生活と環境	菅 原 悅 子
0067	地域の環境保全を考える	竹 原 明 秀

### 外国語科目(英語総合)

0303	英語総合I(中級)	小 林 葉 子
0317	英語総合II(上級)	HALL JAMES MERIWETHER
0339	英語総合II(中級)	松 林 城 弘
0319	英語総合II(中級)	伊 東 栄志郎
0333	英語総合I(中級)	松 林 城 弘

### 外国語科目(英語コミュニケーション)

0367	英語コミュニケーションII(上級)	Gavin Young
0313	英語コミュニケーションII(上級)	Blair Benjamin Reed
0349	英語コミュニケーションII(上級)	Blair Benjamin Reed
0328	英語コミュニケーションII(中級)	ASANO ROBERT KEN
0315	英語コミュニケーションII(中級)	Gavin Young
0309	英語コミュニケーションI(上級)	Gavin Young

### 外国語科目(英語以外)

0479	上級日本語G	藪 敏 裕
0478	上級日本語F	岡 崎 正 道
0469	初級韓国語(発展)	齊 藤 春 佳
0477	上級日本語E	松 岡 洋 子
0429	初級フランス語(発展)	中 里 まき子

### 健康・スポーツ

01016	バドミントン	阿 部 令 奈
01017	バレー ボール	若 林 美 帆
01034	バレー ボール	阿 部 令 奈



平成23年度後期全学共通教育優秀授業科目表彰式にて



# 専門教育等連携部門

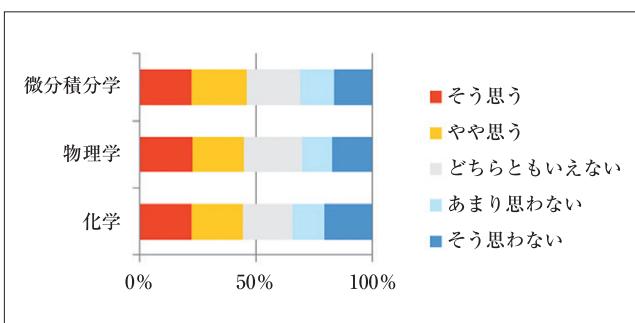
部門長 松川 優明

## 1. 専門基礎教育の充実に向けた検討

本部門では、専門基礎教育の充実に向けた検討を行うために、工学部学生を対象に専門基礎科目の習熟度別クラス編成に関する意識調査を7月に実施しました。その集計結果の一部を報告させていただきます。

「全学共通教育科目の英語では、初級・中級・上級の習熟度別のクラス編成を行っています。あなたが受講している専門基礎科目でも習熟度別のクラス編成を行った方が良いと思いますか？」

(選択肢：①そう思う ②やや思う ③どちらともいえない ④あまり思わない ⑤そう思わない) という問い合わせに対して、以下に示すように微分積分学Iは、工学部学生(回答総数434)の約半数(47%)が、肯定的な回答をしています。



微分積分学Iの学科別のデータを紹介しますと、①再履修クラス54%、②応用化学・生命工学科50%、③マテリアル工学科47%が上位に位置しています。また、物理学の学科別のデータは、①応用化学・生命工学科56%、③マテリアル工学科50%、化学の学科別のデータは、①マテリアル工学科53%、②社会環境工学科47%です。(理科の科目が後期開講の電気電子・情報システム工学科は除いてあります)

授業担当教員の因子を無視すると、習熟度別のクラス編成を希望する比率の高い科目と学科の性格は相関があるように思えます。例えば、マテリアル工学科や応用化学・生命工学科は、学科の性格(数学を頻繁に使う学科という印象はありません)を考慮するとあまり数学が得意でない学生が比較的多く入学しており、そのことが恐らくアンケート結果に反映していると予想されます。また、微分積分学Iの再履修クラスの比率が最も高いのは、成績が不振で単位認定がされない学力不足の学生の意向がストレートに反映され

ているものと思えます。同様に、応用化学・生命工学科は化学を勉強する学科という印象が強く化学の学力が高い学生が多いが、物理学を高校で深く勉強してくる学生は少ない、または物理の学力の高い学生は少ないと考えられるので、物理学の比率が高くなったと推測されます。マテリアル工学科はすべての科目において、上位に位置していることは、予備校の入試データにより予想されているように入学希望者の学力平均が工学部の6学科の中で下位に属しているということと関係があるかもしれません。このアンケート結果については各学部選出の部門会議委員を通じて情報提供がなされる予定です。

次に9月27日・28日に専門基礎科目(数学、物理学・化学)に関する懇談会を開催しました。両日とも専門基礎科目担当者や各学部教務関係委員を含め約20名の出席をいただき、活発な意見交換がなされました。特に習熟度別クラス編成の話題に関して、先行している福井大学工学部の取り組み事例の報告を交えながら、専門基礎教育に与える効用と問題点が指摘され、例年以上に有意義な議論がされました。習熟度別クラス編成による成績評価の公平性については、統一試験を実施することによりある程度保証されるが、初級クラスにおける到達度が一定の基準に適合しない場合には、次の専門教育科目の履修に支障をきたすのではないかという趣旨の意見も出された。また、ティーチングアシスタント(TA)について、TAの選出は授業を開講する学部が責任をもつが、TAの教育は授業担当教員に責任があるという理解に達しました。

## 2. 外国語の自主学習の促進のための具体的取り組みについて

大教センターでは国際交流センターと連携しながら、外国語の自主学習を支援する資源(種々の英語学習支援プログラム)を整理し、学生の利用頻度を高める方策を検討しています。初年次の短期集中型の語学教育を補完するために高年次学生にTOEIC受験の奨励または義務化に向けた調査を実施しています。統一試験の実施は、高年次学生の英語力の学力調査にもなり、就職・進学に向けたスキルアップにも役に立つと考えられます。

# 学生支援部門

部門長 栗林 徹

## 平成 24 年度前期駐輪指導の実施

構内環境改善と新入生への学内交通ルールの周知を図るため、4月 16 日(月)～20 日(金)まで学生支援部門委員、学生議会運営委員会委員及び学生支援課が協働で正門、中央学生食堂前、館坂門、工学部北門付近で駐輪指導を実施しました。また、今回は初めて盛岡東警察署と交通指導員の協力を頂き、これまで以上に指導の効果が上がりました。

## 第55回盛岡・つなぎ間ロードレース大会の開催

6月 2 日(土)に学生 143 名、教職員 10 名の参加を得て、第 55 回盛岡・つなぎ間ロードレース大会を開催しました。

当日は快晴の下、一人の落伍者もなく全員が完走を果たし、団体の部は教育学部が、サークル対抗の部は陸上競技部がそれぞれ優勝しました。

## 東日本大震災被災学生への入学料・授業料等の減免を実施

平成 23 年度に引き続き東日本大震災で被災した学生に対して、通常の免除枠とは別に入学料、授業料の減免と寄宿料の免除措置を行いました。

なお、今回から授業料免除手続きは、年間の免除額を一度に決定する方式で行われました。

## 平成 24 年度 Let's びざんプロジェクトの実施

Let's びざんプロジェクトは、学生が共同で行う独創的なプロジェクトを支援するもので、1 件あたり 50 万円を上限に経費を支援します。

今年度は、書類審査及び面接の結果、6 件を採択しました。

## ボランティア促進イベントの開催

震災復興ボランティアを含めボランティア活動を促進するためのイベントを今年度も開催しました。

日 時：平成 24 年 7 月 19 日(木) 15:00 ～ 16:30

場 所：学生センター A 棟会議室

講 師：岩手大学教育学部 教授 名古屋恒彦

演 題：被災地支援ボランティアの現状と課題

参加者：岩手大学ボランティア団体協議会加盟団体、

天気輪の柱、もりもり☆岩手、教職員及び一般学生

## 財団法人等から東日本大震災被災学生へ奨学金を給付

平成 23 年度に引き続き東日本大震災被災学生向けの財団法人等からの奨学金と岩手大学東日本大震災学生支援募金を原資とする奨学金とを支給しました。

なお、今回から支給対象者の決定は奨学金をまとめて一括で行う方式としたことから、被災程度が高い者から給付額が多い奨学金を受け取ることができます。

## 献血推進協力団体として厚生労働大臣から表彰状を授与

本学が永年に渡り献血推進に協力した団体として、7 月 30 日に厚生労働大臣からの表彰状を授与されました。

これまで感謝状の授与はあったものの、表彰状は初めての授与となりました。

## 平成 24 年度保健管理センター教員と担任教員との連絡会の実施

特別な支援を必要とする学生への対応に係る留意事項等について、保健管理センター教員等と担任教員とで情報交換が行われました。

今回は、学生特別支援室の活動状況も報告され、担任教員からは同支援室の活動に感謝の声が聞かれるなど、日頃、特別な支援を必要とする学生に対する担任教員の悩みが共有され、実りある連絡会となりました。

日 時：9 月 10 日(月) 13:30 ～ 15:10

場 所：学生センター A 棟 G29 講義室

## 学生による地域貢献活動

材木町よ市、上田夏祭り、上田公民館の主催事業などでサークルや同好会が積極的にパフォーマンスや事業の支援を行うなど大学周辺への地域貢献活動を実施しました。



上田夏祭りでのパフォーマンス



上田公民館事業での乗馬教室への協力

# キャリア支援部門

部門長 安田 準

## 産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業

平成 23 年度限りで終了した「大学生の就業力育成支援事業」の後継事業として、24 年度から 26 年度まで大学改革等推進経費を活用して、全国を 9 ブロックに分けて地域産業界と連携する事業に応募した。予定された募集時期が大きく遅れたが、本学は北海道・東北ブロックの 17 大学で構成する「产学官連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」で申請し、9 月 20 日付けで事業に選定された。北海道・東北ブロック全体で 3 つ提案したテーマのうち、本学は「産業界と大学のニーズを踏まえたインターンシップの実施」と「早い段階から『将来目標』『社会・企業』を意識させる正課外の取組」という 2 つのテーマの元に、6 つのプログラムを計画している。秋田県立大学が幹事校となり本学は構成校の立場で参加し、更に南東北・北東北及び北海道地区という 3 つの地区ブロックを構成して他大学と連携して事業にあたる。

## 前期キャリア教育実施状況

共通教育選択科目の「キャリアを考える」は、例年履修希望者の多い科目であるが、初回の授業は、教室定員を上回る学生が履修した。15 回の講義の中には、本学を卒業した社会人も交替でオムニバス方式に講義を担当した。

「知財ワークショップ(地場産業ブランド戦略論)」と「地場産業・企業論」は、いずれも夏季休業期間や休日に開設する集中講義形式の授業である。

## キャリア支援・就職支援の状況

### ①学内就職ガイダンス

3 年生を対象とした就職ガイダンスは、夏季休業期間に出来る自己分析や業績研究など就職活動の準備を内容とし、例年通り 5 月下旬から始めたが、大学生の就職率が改善したとの社会報道もあったことや、就職活動に関心が高まらないのか、参加学生の人数は少なかった。

ガイダンスの折りに学生に配布する就職応援ブック 2013 は、就職活動の日程を自ら記録する習慣を身に付けてもらうために、B5 版にコンパクト化してダイヤリー部分を増やして作成した。

### ②平成 23 年度卒業・修了生の就職状況

本学の就職率は、従来からの算出方法では 88.3% であり、昨年度から 2.6 ポイント下がった。一方、5 月に発表された全国の大学のそれは、93.6% で昨年度を大きく上回ったが、この算出数字は大学によっては就職希望者数が操作された数値であり、実態を反映していない旨が報じられていた。本学の取り扱いについては、9 月のキャリア支援部門会議で算出方法の妥当性が確認された。

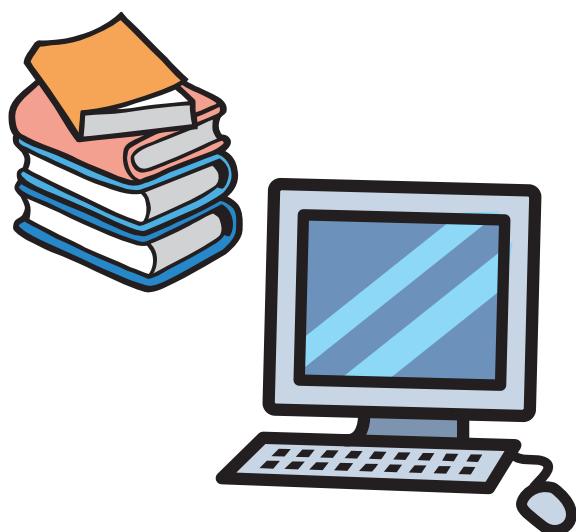
なお、就職支援を更に徹底するために、就職ガイダンスの内容の改善や未内定者の把握と個別支援に取り組む。

### ③学生のキャリア相談・就職相談体制

昨年度までは、「大学生の就業力育成支援事業」でキャリアカウンセラーを非常勤講師に採用して、学生の要望に対応できたが当該事業は、平成 23 年度限りで廃止になった。4 月からは大学運営費交付金の社会的自立支援経費を用いて、前年度と同様の体制を整えている。加えて、ヤングハローワークからジョブセンターが、週 2 日来学して学内で就職相談に対応いただいている。

### ④ジョブシャドウ(1 日職場体験)の実施

「大学生の就業力育成支援事業」として昨年度に始まった本プログラムは、参加学生の強い継続要望があり教育効果も認められたため、事業廃止後の今年度も学内の事業費配分を得て、7 団体(企業)の協力のもと 17 名の学生が参加して実施することができた。



# アイアシスタント

教育改善部門 江本 理恵

前号でお知らせした通り、アイアシスタントの改修を行いました。アイアシスタントが当初の想定以上に、学生への「情報提示」手段として活用されていることが判明し、今回は特にその点を重点的に改修しました。ただし、それでも「応急措置」的な改修であることは否定できず、大学から学生への「情報提供」方法については、全学的な検討が必要な時期にきているのだと思います。

## 新着情報の提示方法の改善(学生)

学生のポータル画面の新着情報提示方法を改善しました。現在、学生のポータル画面には、大量の各種新着情報が表示されている状態になっています。そこで、各種新着情報を分類し、表示エリアも拡大して、見やすい画面を提供することにしました。さらに、下記に示すように、「お知らせ」の対象を詳細に設定できるようになり、新着情報に提示される情報そのものも減ることになります。

また、教員の画面でも、新着情報欄に表示されている「すべて」「授業関連情報」「その他の情報」のリンクをクリックすることで、表示される情報を絞り込むことができるようになりました。



## 科目別の「お知らせ」登録機能の追加

今まで、「事務連絡」機能として、科目別に「休講」「補講」「教室変更」が申請できるようになっていましたが、加えて「お知らせ」が申請できるようになりました。例えば、「レポート課題の出題」、「試験日、試験内容の周知」といった個別授業の履修者に向けた連絡事項

を登録することができます。

ここでで登録した事項は、担当グループの事務職員の確認を通して、掲示板に掲示される他、アイアシスタントの新着情報として学生に提示されます。

## 学生宛通知内容の新着情報提示

「学生宛通知」機能では、携帯のアドレスを登録している学生を除けば、学生の大学のアドレスに通知が届くことになるので、あまり使い勝手の良いものではありませんでした。そこで、「学生宛通知」の内容を「新着情報」にも提示するようにし、アイアシスタントに(携帯電話からでも)ログインすることで、「学生宛通知」の内容を確認できるようになりました。

ただし、休講や補講については、同時に「事務連絡機能」を用いて、必ず、学務課を通すようお願いします。

# 委員会及部門会議名簿

## 大学教育総合センター運営委員会委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏 名	担当部局等
センター長	高畠義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	長野俊一	人文社会科学部
入試部門長	高畠義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	横山英信	人文社会科学部
教育改善部門長	武井隆明	教育学部
専門教育等連携部門長	松川倫明	工学部
学生支援部門長	栗林徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田準	農学部
副学部長又は評議員	吉村泰樹	人文社会科学部
	遠藤孝夫	教育学部
	船崎健一	工学部
	古賀潔	農学部
教務関係委員長	山本昭彦	人文社会科学部
	菊地洋一	教育学部
	嶋田和明	工学部
	居在家義昭	農学部
学務部長	渡部徹	学務部

## 大学教育総合センターセンター会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏 名	担当部局等
センター長	高畠義人	理事(教育・学生担当)
副センター長	長野俊一	人文社会科学部
入試部門長	高畠義人	理事(教育・学生担当)
全学共通教育部門長	横山英信	人文社会科学部
教育改善部門長	武井隆明	教育学部
専門教育等連携部門長	松川倫明	工学部
学生支援部門長	栗林徹	教育学部
キャリア支援部門長	安田準	農学部
専任教員	江本理恵	大学教育総合センター
	岡本崇宅	大学教育総合センター
学務部長	渡部徹	学務部

# 委員会及部門会議名簿

## 入試部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	高畠義人	大学教育総合センター長
専任教員	岡本崇宅	大学教育総合センター
	吉村泰樹	人文社会科学部
兼務教員	土屋明広	教育学部
	伊藤歩	工学部
	庄野浩資	農学部
	家井美千子	人文社会科学部
	横山英信	人文社会科学部
	境野直樹	教育学部
各学部入試委員会 (正・副委員長)	我妻則明	教育学部
	平塚貞人	工学部
	水野雅裕	工学部
	倉島栄一	農学部
	木村賢一	農学部
入試課長	藤原昇	学務部

## 全学共通教育部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	横山英信	人文社会科学部
専任教員		
	横井雅明	外国語分科会
	清水茂幸	健康・スポーツ分科会
	藤本忠博	情報基礎分科会
	中村安宏	思想と文化分科会
	神常雄	心と表象分科会
兼務教員	横山英信	公共社会分科会
	三井隆弘	現代の諸問題分科会
	西山賢一	生物の世界分科会
	八木一正	自然と数理の世界分科会
	柳岡英樹	科学技術分科会
	河合成直	環境分科会
	河田裕樹	人文社会科学部
各学部教務委員会	遠藤匡俊	教育学部
	嶋田和明	工学部
	伊藤芳明	農学部
学務課長	浅沼良庸	学務部

## 教育改善部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	武井隆明	教育学部
全学共通教育部門長	横山英信	人文社会科学部
専任教員	江本理恵	大学教育総合センター
	五味壯平	人文社会科学部
兼務教員 (学部選出委員)	後藤尚人	人文社会科学部
	宮川洋一	教育学部
	山崎浩二	教育学部
	松浦哲也	工学部
	吉野泰弘	工学部
	横井修司	農学部
	三浦靖	農学部
学務課長	浅沼良庸	学務部

## 専門教育等連携部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	松川倫明	工学部
専任教員		
	河田裕樹	人文社会科学部
兼務教員 (各学部教務委員会選出教員)	犬塚博彦	教育学部
	嶋田和明	工学部
	國崎貴嗣	農学部
学務課長	浅沼良庸	学務部

## 学生支援部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	栗林徹	教育学部
	松林城弘	人文社会科学部
兼務教員 (各学部学生委員会選出教員)	ホールジェームズ	教育学部
	土岐規仁	工学部
	出口善隆	農学部
	白倉孝行	人文社会科学部
学部選出教員	菊地悟	教育学部
	海田輝之	工学部
	立川史郎	農学部
学生支援課長	佐藤祐一	学務部

## キャリア支援部門会議委員名簿

(平成 24 年 4 月 1 日)

	氏名	担当部局等
部門長	安田準	農学部
	竹村祥子	人文社会科学部
兼務教員 (各学部就職委員会選出教員)	大河原清	教育学部
	高木浩一	工学部
	古賀潔	農学部
キャリア支援課長	大内正	学務部

# *erudio 17*

2012年12月発行



国立大学法人  
岩手大学 大学教育総合センター

Iwate University : University Education Center  
〒 020-8550 岩手県盛岡市上田 3 丁目 18-34

- 入試部門 tel.019-621-6926
- 全学共通教育部門 tel.019-621-6925
- 教育改善部門 tel.019-621-6924
- 専門教育等連携部門 tel.019-621-6925
- 学生支援部門(学生支援課) tel.019-621-6058
- キャリア支援部門(キャリア支援課) tel.019-621-6059

■部門共通 fax.019-621-6928  
電子メール uec@iuate-u.ac.jp  
Webサイト <http://uec.iuate-u.ac.jp/>

